

東洋計測株式会社

代表取締役会長 和田 裕 氏
代表取締役社長 和田 厚 氏



茨城県鹿嶋市に本社を構える東洋計測株式会社は、1977年に創業し、40年以上にわたり、茨城県をはじめ千葉県、福島県内にある発電所のメンテナンス業務を行っています。

さらに2006年から、ITソリューション事業にも注力しはじめ、現在では、地域の子どもたちへのプログラミング教育にも力を入れています。

日本の電力インフラを支える「地域でナンバーワン」の100年企業を目指し、日本一の技術とサービスで地域に貢献する同社の取り組みを取材しました。

インタビュー日：2019年10月25日
〔聞き手：筑波総研(株) 取締役社長 野口 稔 夫〕
〔文・写真：筑波総研(株) 主任研究員 富山かなえ〕

企業概要

本 社：茨城県鹿嶋市宮下3丁目4番6号
作 業 所：茨城県(鹿島作業所、常陸那珂作業所)
千葉県(富津作業所、袖ヶ浦作業所)
福島県(広野作業所、福島第一現場事務所、
福島第二現場事務所)

創 業：1977年3月7日
事業内容：計装制御システムエンジニアリング事業
ITソリューション事業

従業員数：48名

自社HP：<http://www.toyoeks.com/index.html>

和田会長が御社を創業された経緯、事業拡大のプロセスなどについてお聞かせください。

高度成長期の電力需要を支えた若き技術者

私は福島県小名浜町（現いわき市）に生まれました。若くして故郷を離れ、火力発電所の建設工事を手掛ける企業に就職後、18年間、発電所建設のエンジニアとして多くの経験を積みました。

当時の日本は、高度成長期の真っただ中。経済成長を支える電力の需要が日本中で高まり、各地で発電所の建設ラッシュが起きました。

私も北は北海道から、北陸、関東、南は四国まで、1、2年のスパンで各地に赴任し、日本の電力インフラを支えてきました。

そして、1965年前半には、当社創業の原点となる鹿島臨海工業地帯の電源、鹿島火力発電所の開発に携わることになりました。

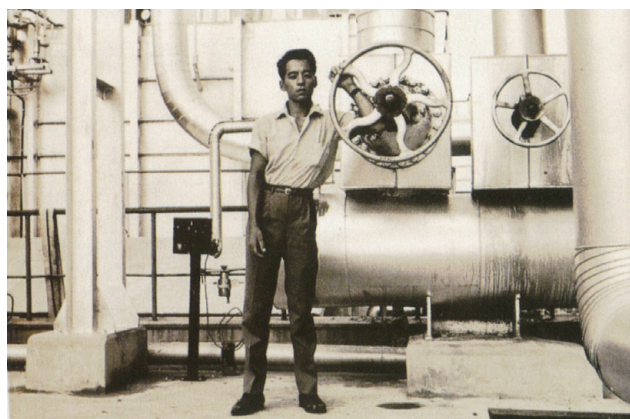
発電所メンテナンスの先駆者として出発

鹿島火力発電所の建設に目途が立ってきた頃、東京電力の社員から声を掛けられました。「和田君、発電所のメンテナンスをやってみないか」。

それまで私は、全国各地の発電所建設に携わってきた経験から、腕には自信がありました。しかし、メンテナンスは未知の世界でした。

東京電力の社員が私に声を掛けた理由は、私の二つ返事で仕事に取り組む献身的な姿や確かな技術力を見抜き、「この人に任せたい」と思っていたのだと思います。

「戻る故郷もなく、東京では人から信用されることのなかった自分が、今、目の前の人から頼られている」。この時、私は自分の存在意義を強く感じる事ができました。



発電所のメンテナンス業務を始めた頃の和田会長
(写真提供：東洋計測㈱)

各地に作業所を開設し、順調に事業を拡大

その後、私は独立を決意し、1971年からメンテナンス業務を開始しました。発電所を安全に運転するためには、様々な知識が必要です。例えば、プラントごとに変わる制御システムの知識、石油や石炭、原子力など燃料に関する知識、メーカー各社の製品知識など、広い分野を理解した上で、メンテナンスを行う必要があります。

独立当初は試行錯誤の連続でしたが、私は「お客様の期待に応えたい」一心で、業務に必要な国家資格を短期間で次々と取得しました。

しかし、どうしても修理が難しい時は、東京電力に指導員の派遣を依頼し、自分の技術と知識を深める努力をしました。

独立して数年が経ち、事業も軌道に乗った頃、私は自分の中に「次の世代にも、電力インフラを支えるメンテナンス技術を伝えたい」という想いが大きくなっていることに気付きました。

そして私は、1977年3月に有限会社東洋計測を設立し、鹿島火力発電所内に作業所を開設しました。その後、県内をはじめ、千葉県や福島県内の火力発電所や原子力発電所のメンテナンス業務を請け負い、各地に作業所を次々と開設し、順調に業務を拡大していきました。

メンテナンスは毎年行われるため、安定的な収益が見込めます。協力会社にも気前よく支払い、良好な関係を維持しました。また、東京電力から直接仕事を請け負っていたため、当社のやり方で仕事を進められたことも良かったと感じています。

東日本大震災における作業所の被害や発電所の復旧作業などについてお聞かせください。

福島第一原子力発電所の復旧作業に尽力

2011年に起こった東日本大震災により、福島県内の作業所は甚大な被害を受けました。しかし、作業所の復旧よりも先に、深刻な事故が起きた福島第一原子力発電所をはじめ、メンテナンス業務を請け負っていた全7か所の発電所の復旧作業に全力を尽くしました。

私が全体の指揮を執り、福島県の広野火力発電所では、技術者100名を集めて復旧作業に当たりました。想像を絶する現場の状況に、私を含め社員の気力と体力は限界に近づいていきました。

福島復興に奮闘する社員たちに感謝

長引く復旧作業の中、廃炉に向けた新たな作業が発生し、当社は多くの業務依頼を受けました。しかし、社員からは「やりたくない、行きたくない」という声が多く挙がったのです。

正直、メンテナンス業務が年々下火となっていたこともあり、私と息子の心は激しく揺れ動きました。しかし、それ以上に私たちを突き動かしたのは、当社が掲げる基本方針の1番目に据えた『お客様第一主義』でした。

「今こそ、日本の電力インフラを支えてきた当社の技術力を活かす時」。社員たちは会社の判断を受け入れ、現地に赴くことを承諾してくれました。彼らには感謝の気持ちしかありません。

現在、当社は、福島第一原子力発電所の廃炉に向け、冷却水タンクに水位計を取り付ける業務やサーモグラフィーによる温度測定業務などを請け負っています。当社の功績を称えた感謝状の数々は、私たちの誇りとなっています。



数々の感謝状の前に
和田会長(中央左)、和田社長(中央右)、
筑波銀行鹿嶋支店 斉藤支店長(右)と聞き手・野口稔夫

和田社長が事業に携わるようになった経緯や現在、注力されている事業をお聞かせください。

地道な“種まき”で、新たな事業の芽が出る

私は鹿嶋市で生まれ育ち、父と母の働く背中を見ながら成長しました。大学を卒業後、都内のメーカーに就職しましたが、当社の経理担当であった母が病に倒れたことを受け、私は3年で勤務先を退職し、そのまま当社に入社しました。

入社当初、病床で母から経理など様々な業務を引き継ぎ、その後、営業として3年間、県内各地を回って“種まき”を行いました。



ITソリューション事業について語る和田社長

新参者を相手にしてくださるお客様は少なく、簡単に芽が出ることはありませんでした。しかし、新たな人脈ネットワークの構築に向けて、私は根気強く名刺を配り続けていきました。

当時、パソコンのOSは「Windows95」の時代です。企業や市役所などでパソコンの導入が進み、当社もパソコン周辺機器レンタルやグループウェア設定などの業務を展開しました。

ある日、名刺配りのため鹿嶋市役所内を回っていると、部長など幹部クラスの方から「パソコンの使い方が分からない。後でうちに寄ってくれ」と声を掛けられるようになりました。

その後も導入先への丁寧なアフターサービスを行ったことで、お客様から「IT関連で困ったら、まず東洋計測さんに相談」と、気軽に声を掛けていただける関係を築くことができました。

新たに「ITソリューション事業」を展開

当社は、これまで培ってきた発電所の制御系システム業務の経験を最大限に活かして、2006年から本格的に「ITソリューション事業」を展開することにしました。

同事業では、システム構築やサーバ・パソコン導入、セキュリティ対策、ネットワーク構築、ソフトウェア開発など、お客様の要望に合わせたサービスを展開し、現在では、売上全体の1/3を占めるまでに成長しました。

東日本大震災の翌年に父から社長のバトンを受け取り、ちょうどその頃からITソリューション事業の売上が増加したことで、下向き傾向であったメンテナンス事業をカバーする形となり、全体のバランスを安定させることができました。

子どもたちのプログラミング教育を支援

2007年に請け負った鹿嶋市内の全小学校へのパソコン導入業務をきっかけに、現在、当社では、地域の子どもたちへのプログラミング教育支援に力を入れています。

小学校では、2020年度からプログラミングの授業が必修となるため、現在、多くの小学校が来年度に向けて準備を行っています。

当社は、子どもたちのプログラミングへのより深い理解をサポートするため、「ICT（情報通信技術）指導員・支援員」を7名雇用・育成し、鹿行地域内の各小学校へ派遣しています。

昨年10月、銚田市立銚田北小学校で行われた公開プログラミング授業では、当社が派遣したICT指導員・支援員が授業のサポートを行いました。視察した文部科学省などの関係者からは、高評価をいただいたと聞いています。

今後も、プログラミング教育支援のパイオニアとして、地域の子どもたちの教育と未来を支えていきたいと考えています。

和田社長が考える理想の会社像や社員への想い、今後の展望などについてお聞かせください。

会社の方向性を描く「経営計画書」

当社は毎年、「経営計画書」を策定しています。会長の師で、経営コンサルタントの一倉定氏からの教えを取り入れ、今年で44期目となります。

経営計画書には、基本方針をはじめ、「人生をより良く生きるための方程式」や「守・破・離」など物事を学ぶ際の行動指針などを記しています。判断に困った時、この経営計画書に立ち戻ると、襟を正して前に進むことができます。



「経営計画書」誕生の想いを語る和田会長（左）

「経営計画発表会」で社員の結束を高める

当社は、毎年4月に「経営計画発表会」を開催しています。発表会には各地に赴任する作業員やパート社員を含む全社員が出席するほか、筑波銀行の役員など来賓も多数ご招待しています。

発表会では、社長訓示をはじめ、今年度の目標発表、各事業所からの業務改善提案、社員の功績を称える表彰式などを執り行います。

表彰式では、素晴らしい実績を挙げた社員や他の社員から「ありがとう」が多数寄せられた正社員、パート社員を表彰します。

表彰状の内容は、私が一枚一枚文章を考えています。例えば、永年勤続表彰では、入社以降の実績に対する感謝や今後期待する言葉を添え、これまでの苦勞をねぎらいます。他の社員は「私の時はどんなことを書いてくれるんだろう」と楽しみにしているようです。

社員は“宝”です。一つひとつの原石をどのように磨き、どの角度で光を当てて価値を高めるかは、企業の責任であると感じています。



経営計画発表会の様子（写真提供：東洋計測(株)）

“宝”である社員とともに100年企業を目指す

当社は信頼できる社員とともに、40年以上にわたって日本の電力インフラを支えてきました。

今後は「地域でナンバーワン」の100年企業を目指し、日本一の技術とサービスで地域に貢献していきたいと考えています。

そして、多くのお客様から「東洋計測に頼んで良かった」と言い続けていただける企業となるため、社員一同、切磋琢磨してまいります。

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。